

講座だより



【山田辰美氏による講義の様子】

令和3年8月14日（土）に森林環境教育指導者養成講座の『養成コース第1回』を実施しました。今年度は県内各地より指導者を志す26名の方が受講します。初回は、新型コロナウイルス感染症のため現地で集まって行う講義ではなく、本講座3年目にして初めてオンラインでの実施となりましたが、受講者が互いを知り、自身の受講の目的を確認することができました。また午後は常葉大学名誉教授の山田辰美氏を講師に、ご自身の活動を基に、「森林環境教育の意義」や「指導者の在り方」について、お話をいただきました。

【午前】開講式・オリエンテーション・アイスブレイク

開講式では講座の目的について説明がありました。その後、アイスブレイクゲームでは、オンラインの特性を活かした集合ゲームや、インタビューゲームを通して、どんな人たちが受講しているのか互いを知り、新たな仲間づくりの場としました。このアイスブレイクは、受講者の緊張を解きほぐすだけでなく、指導者はアイスブレイクを通して「場づくりの配慮」を行っていることや、愛(LOVE)のある場づくりを大切にしていることを学びました。LOVE：聴くListen、開くOpen、語るVoice、楽しむEnjoy



【オンラインでのアイスブレイクの様子】

【午後】環境教育の進め方「環境教育の進め方と心構え」

【オンラインでの講義の様子】

指導者の役割とは

プログラム作り

楽しく取り組み甲斐のある体験(活動・場)
盛り上がる遊びを取り入れる
参加者に合わせた活動内容、ルート、難易度

<留意点>

- ・五感を使った自然体験
- ・知識や情報よりも、感じること・気付きを重視
- ・注入(教主義)ではなく、開発(子ども中心主義)
- ・個性や得意技を活かして、自然への関心を



【身近な自然体験の事例を紹介する様子】

午後は山田氏による「指導者の在り方」や「森林環境教育の意義」について講義がありました。自然離れが進んでいる現代において、様々な環境課題を解決するために、環境教育がとても重要であることや、子どもたちの興味や関心を引き出すには、指導者自身が自然を楽しみながら伝えることが大切であると語られました。受講者からは山田氏の話方や、笑いを交えた楽しい講義から、目指す指導者の在り方として、多くの学びを得ることができたという感想が聞かれました。ぜひ対面で、森の中で行いたいという声も多数ありました。

<発行元>